

# 文化施設における市民意識調査における周辺環境の満足度について

## Satisfaction for Environment in Social Survey on Regional Theater.

羽藤 律

Tadasu Hatoh

桐朋学園芸術短期大学

Toho Gakuen College of Drama and Music

内容梗概: オープニングから数年が経過した公共劇場の運営や事業が市民のニーズと合っているのか、また、ニーズを上げるためにどのような事業が求められているのか市民意識調査の結果に基づき考察した。さらに、文化施設の満足度が、周辺の生活環境の満足度とどのような関係を持っているのか検討した。質問紙法を用い、無作為抽出した市民 1000 名を対象として、市民意識調査を行った。その結果、対象劇場を知っている人は総回答数の 6 割程度、「生活の質」への影響も小さかった。事業への要望は、「支援・育成」が多くみられ、当初の管理運営計画と合っていた。生活満足度との関係をみると、文化施設の満足度は、「みどりの豊かさ」、「買い物の便」、「交通の便」について高かった。これらの結果より、周辺環境の改善や芸術文化面の事業の拡充が課題となることが示唆された。

### 1. はじめに

地方公共団体が主体となって設置された公共劇場は、長年にわたる市民の要望や、街づくりの長期プランをもとに、設計計画が立てられ、自らの予算措置のもと建設されてきた。2008 年の調査で、その数は全国で 3944 館にのぼる<sup>1)</sup>。

その設置目的は、さまざまな様式のクラシック音楽、演劇、古典芸能など、多岐にわたっている。地方においても、様々な規模の多様なジャンルの公演を目的とした施設が設置されてきた。一般的に大規模な劇場は、都道府県や政令指定都市によって設置されている。また、市町村においても、その目的がはっきりとしているものもみられる。

公共劇場設置の効果として、市民は普段観ることのできない質の高い芸術に接することができるほか、芸術諸分野の市民活動に参画することによって芸術の持つ様々な効果や価値を体験できることを挙げることができよう。これらの活動が引き金となって、市民間の交流が生まれ、活動が質、量ともに充実するものとなると思わ

れる。

その効果のために、各種の事業が行われるわけであるが、その目的は多岐にわたり、それを具現化するための方法には限りがない。

運営主体はこれまでの地方公共団体とその関連団体などに限られていたが、2005 年 9 月の地方自治法第 244 条<sup>2)</sup>の改正によって、例えば NPO であっても企業であっても議会の承認を経れば、運営主体とすることができることとなっている。このことを見ても劇場の地域に対する働きかけは、多岐に及んでいる。

そこで、市民が何を観たいか、何を聴きたいか、劇場をどのような目的で利用したいかが重要となる。もちろん、事業を実施した時のアンケートは「劇場へ足を運んだ」人のみが答えるものとなり、演技や演奏表現に関するニーズを知ることができ、劇場、制作団体、出演者やスタッフにとって極めて有用な情報を得ることができる。しかし、母集団がその公演に興味・関心があって来場した市民が中心となることも現実でもある。また、アンケートに記述する行動

は、対象となる公演に対して、「良かった」という極端なポジティブ反応、「悪かった」という極端なネガティブ反応と捉えることができ、必ずしも十分に客観性があるとは思えない。よって、この条件を満たすためには、さまざまな年齢層、居住地域からランダムに選択された住民の意見をきくことによる、客観的な調査も重要であることも示唆される。

意識調査を行うにあたって、公立劇場は都道府県、政令指定都市、市町村が設置しているものであるため、対象としているエリアが限定される。加えて広報も、対象地域に限定される。最近の公立劇場の運営において、例えば市であれば市外の来場者に対して情報提供することも多いが、やはり対象の主体は自治体の市域や県域とすべきであろう。

本報告は、調布市民に限定して、調布市せんがわ劇場の「舞台芸術を楽しむ市民の育成・支援拠点」<sup>3)</sup>としての認知度がどれだけ高まってきたのか、平成20年度の調布市市民意識調査<sup>4)</sup>において優先度の低い結果が示された芸術・文化活動の市民全体のニーズに込んでいるのか、また、ニーズを上げるためにどのような事業が求められているのか考察するものである。

加えて、難波ら<sup>5)</sup>が提案の「生活環境に関する調査」において提案した、生活の満足度調査と似た質問を回答者の属性に交え、文化施設の満足度が生活環境の満足度とどのような関係を持っているのか検討することも目的としている。

## 2. 方法

### 2.1. 対象施設

調布市せんがわ劇場を対象施設として選定した。その理由として、調布市の直営であるという特徴を生かし、芸術文化施設として独自の事業展開を行っていること、開館2年目で今後の利用拡大のためさまざまな方法を検討していることを挙げることができる。

### 2.2. 調査票

調査票はフェースシート2枚と、調査票3枚から成っていた。フェースシート1枚目には、題、趣旨目的を記述した市長名の依頼文と調査票の回収方法等を記載した。2枚目には、せんがわ劇場のあらまし、施設概要、事業概要を示した。この2枚のフェースシートに加えて、3枚それぞれ表と裏双方に調査用紙を印刷し、回答者は調査用紙に直接記述し、回答用紙を送付

した。内容は、劇場を知っているかどうか、自主事業にきたことがあるかどうか、施設や職員の印象、今後の事業希望などを記述した。後半には、回答者の属性に加え、生活の満足度について記述した。

### 2.3. 手続き

次の条件で、無作為抽出を行った。

- ・サンプリング数：1,000人

(18歳以上80歳未満)

- ・サンプリング：仙川地域650名(約2/3)

その他の地域から350名(約3分の1)を抽出した。回答期間は、原則として2週間とした。

## 3. 結果

総回答数は346件であり全回答を採用した。各項目の頻度データ(項目毎の回答人数/総回答数)×100(パーセンテージ)及び自由記述を集計した。

以下、結果の概要を質問項目ごとに述べる。

### 3.1. 認知度

\*\*\*\*\*

Q1 あなたは、せんがわ劇場を知っていますか(あてはまるものを1つ選んで○)。

1. 知っている
2. 知らない

\*\*\*\*\*

結果を図1に示す。知っていた回答者は、62%、知らなかった回答者は、37%であった。

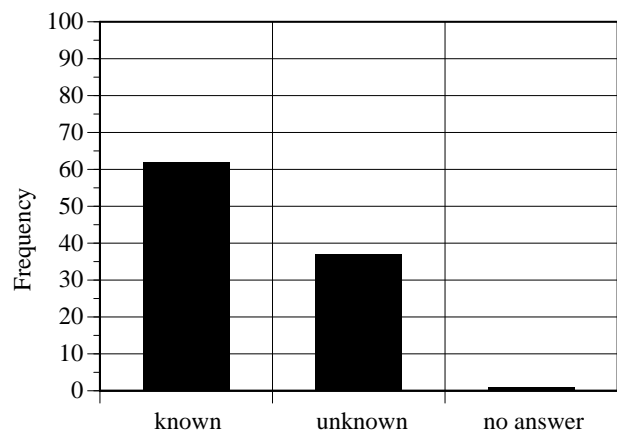


Fig.1 せんがわ劇場を「知っているか」どうか(単位%)

本劇場は調布市が計画段階から検討委員会を設置し、市民の積極的な参画を促すとともに、個性的なコンセプトを打ち出すことによって、市民への劇場の周知に努めてきた。安藤忠雄氏が設計した「建物群」の中にあつて、隣に美術館、保育園を利用する市民、そこに住む市民、観光客まで多くの市民が通過している。また、オープニングにおいては、さまざまなイベントを開催するとともに、開館後においては市報に積極的に情報を告知する等、独自の広報・宣伝に努めている。これらの活動が、せんがわ劇場を知っている市民の割合の高さに結び付いていると考えられる。しかしながら、全体のほぼ4割は、告知が行きわたっておらず、積極的な施設のアピールが望まれる。

### 3.2. 来館率

\*\*\*\*\*

Q2 せんがわ劇場へ何回ぐらい行ったことがありますか（あてはまるものを1つ選んで○）。

- 1. 1回            5. 5回
- 2. 2回            6. それ以上（     ）回
- 3. 3回            7. 行ったことがない
- 4. 4回

\*\*\*\*\*

結果を Fig.2 に示す。1回が5%，2回が3%，3回が1%，行ったことがない市民が89%であった。認知度の高さに比較して、行ったことのある市民が9%，行ったことのない市民が89%であった。また、行ったことのある市民は全員3回以下である。認知率の高さに対して、調査票に書き込み、返送するという行政に協力的な市民が多いことを考慮しても、必ずしも多いとはいえない。

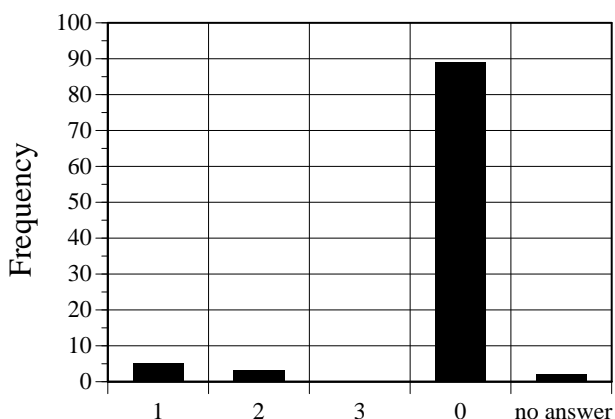


Fig.2 せんがわ劇場に「何回ぐらい」  
いったことがあるか（単位%）

ハード面での理由として、駅前の繁華街から少し離れていること、フラッグや看板を立てにくいデザインや、保育園と併存しているため、入口が分かりにくいことが挙げられる。

ソフト面では、支援・育成施設として、活発な創造活動に専念しているという事業の特性によることによると思われる。

しかし、市民利用施設としての位置づけを考えると、貸館事業の積極的展開や、市民が気軽に入れる工夫も求められていることを示唆している。

### 3.3. 事業への要望

\*\*\*\*\*

Q12 施設運営や事業に対する要望はありますか（あてはまること全てに○）。

1. 質の高い鑑賞型の公演をやってほしい
2. 市民の文化活動がより活発になるように支援をしてほしい
3. 講演・講座を企画してほしい
4. 市民が簡単に利用できるようにしてほしい
5. 初心者でも舞台に立てるようなきっかけづくりをしてほしい
6. 若手の芸術家を育成してほしい
7. 演技や自己表現がもっと上手になるよう指導してほしい
8. その他（具体的に：     ）

\*\*\*\*\*

結果を Fig.3 に示す。事業や施設に対する要望事項として最も高い項目は、「市民の文化活動がより活発になるように支援をしてほしい（18%）」、「講演・講座を企画してほしい（18%）」ということであった。これらに、「質の高い鑑賞型の公演をやってほしい（14%）」、「演技や自己表現がもっと上手になるよう指導してほしい（13%）」、「初心者でも舞台に立てるようなきっかけづくりをしてほしい（8%）」が続いた。開館時に決められた管理運営計画<sup>3)</sup>によるとせんがわ劇場の運営の柱は支援・参画・学ぶということであるが、現状においても市民ニーズと合っている。

今後、ニーズに沿うと思われる事業も、ニーズを達成するアクションが重要であると考えられる。

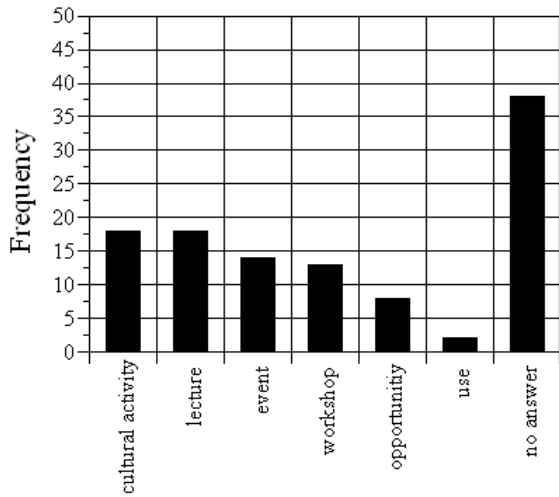


Fig.3 事業や施設に対する要望 (単位%)

### 3.4. 生活の質

\*\*\*\*\*

Q13 せんがわ劇場が開館したことで、あなたの生活の質は以前と比べ向上されたとお思いですか (あてはまるものを1つ選んで○)。

1. 良くなった
2. 変わらない
3. 悪くなった

\*\*\*\*\*

生活の質とは、「日常、快適な生活が行われているかどうか」という医療や福祉の現場で多く用いられるものである。芸術文化もその一端を担うであろう。そのためには、官・民間問わずさまざまなサービスの充実度が反映される。さらに、回答者の個人の要因によっても影響を受ける。そのため、「生活の質」の向上は、なかなか見込めないと思われる。

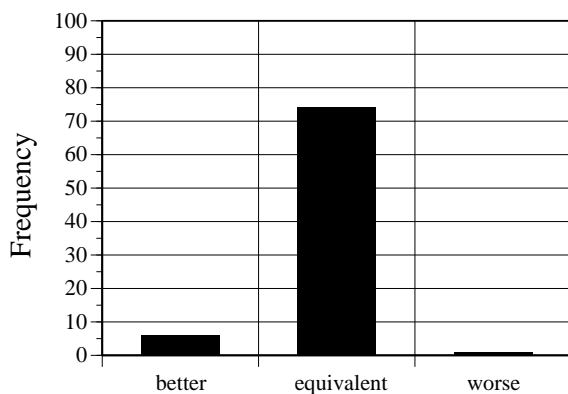


Fig.4 生活の質が向上したかどうか (単位%)

結果を Fig.4 に示す。「良くなった」は6%、「変わらない」は74%、「悪くなった」は1%であった。この結果は、あまり多いとはいえないが、開館後2年ではあるが、せんがわ劇場が、市民の生活の質を上げるための効果を持っていることが窺える。

今後、長期的かつ多面的な事業展開による積極的な展開が期待される。

### 3.5. 今後の公演の希望・要望

\*\*\*\*\*

Q15 せんがわ劇場で今後どのような公演や講座をやってほしいとお思いですか (あてはまるものにすべて○)。

1. 演劇
2. 音楽
3. 舞踊
4. 伝統芸能
5. その他

\*\*\*\*\*

結果を Fig.5 に示す。希望ジャンルは、音楽(34%)が大きく、演劇(19%)や伝統芸能・大衆芸能(18%)がそれに続く。回答者の希望するジャンルのなかで、音楽ではクラシック、ジャズ、ロックを、演劇ではミュージカルを、伝統芸能・大衆芸能では寄席、能、狂言が挙げられていた。自由記述に特に多く要望されていたのは、クラシック音楽(9%)及び落語・寄席芸(9%)であった。

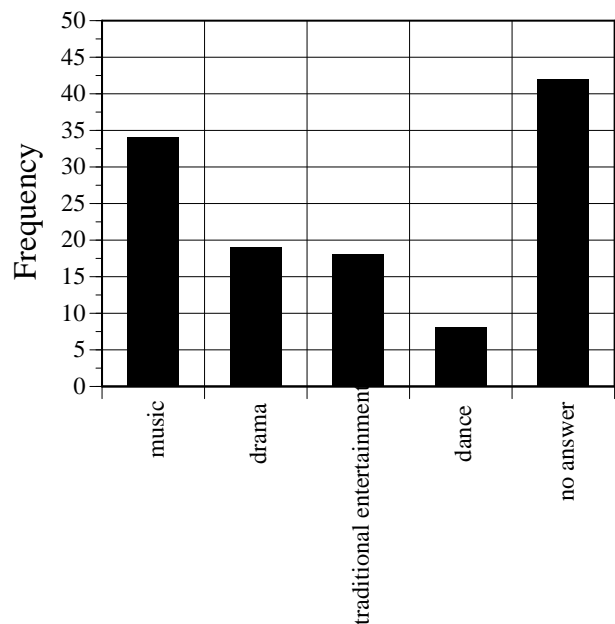


Fig.5 どのような公演や講座をやってほしいか (単位%)

すなわち、市民はよく知られた質の高い芸術にふれたいということが示された。ジャンル間の事業バランスが重要であることも示唆される。さらに、子供を対象としたもの、親子で楽しめるもの、高齢者も楽しめるものやしてほしいという意見も挙がった。

### 3.6. 生活環境の満足度

\*\*\*\*\*

Q27 現在住んでおられる地域のことでお伺いします。次のそれぞれの事項についてどの程度満足しておられますか（あてはまるものを1つ選んで○）。

	不満		満足		
(1) 買い物の便	1	2	3	4	5
(2) 交通の便	1	2	3	4	5
(3) みどりの豊かさ	1	2	3	4	5
(4) 空気のきれいさ	1	2	3	4	5
(5) 周りの静けさ	1	2	3	4	5
(6) 公園や図書館などの公共施設	1	2	3	4	5
(7) グリーンホールなどの文化施設	1	2	3	4	5

\*\*\*\*\*

Q27 は、難波ら<sup>5)</sup>が提案の「生活環境に関する調査」によって提案された、生活の満足度に関する項目に、項目(7)の文化施設に関する項目を加えたものである。Q27 で得た値は、本来順序尺度であるが、間隔尺度とみなして平均値を計算した。なお、7つの項目のうちいかなる項目でも無回答があったデータ、1つの項目でも重複した判断があったデータは、判断の信頼性が低いものとみなし、分析の対象から除外した。よって、総計299名のデータを使用した。

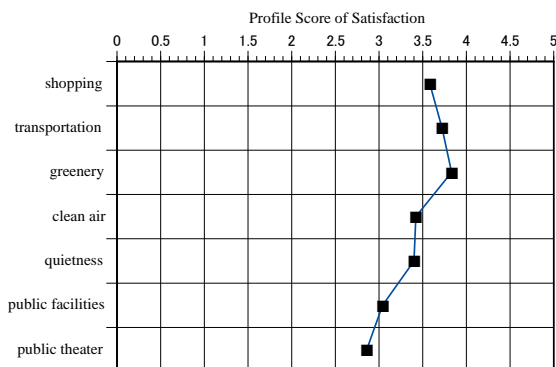


Fig.6 生活環境の満足度のプロフィール

結果を Fig.6 に示す。「買い物の便」、「交通の便」、「みどりの豊かさ」が満足度の上位に挙がった。対して「空気のきれいさ」、「周りの静けさ」、「公演や図書館などの公共施設」、「グリーンホールなどの文化施設」に対しては、満足度が上記の項目と比較して有意ではないが満足度が低かった。今後、周辺環境の改善や芸術文化面の事業の拡充が、望まれるところである。

なお項目間の相関係数を、Table 1 に示す。太字は 0.2 以上の相関係数である。無相関検定の結果、項目 1 と項目 4、項目 2 と項目 5 の間に相関があるとは必ずしもいえなかった ( $r < 0.05$ )。

「買い物の便」は「空気のきれいさ」と関係が低く、「交通の便」は「周りの静けさ」と関係が低いことは、その因果関係からみれば妥当であると思われる。

Table 1 によると、次の項目の相関が高かった。

- (1) 「買い物の便」、「交通の便」
- (2) 「みどりの豊かさ」、「空気のきれいさ」、「周りの静けさ」
- (3) 「公園や図書館などの公共施設」、「グリーンホール等などの公共施設」

これより、それぞれ社会基盤、環境、施設別に同じ傾向の判断が加わっていることが窺える。

また、文化施設についてみれば、「公共施設」と相関が高いのは妥当と思われるが、「買い物の便」、「交通の便」、「みどりの豊かさ」、「空気のきれいさ」とも低い相関が見られた。これは、回答者が、もともと判断に際して固定観念をもっていた可能性がある。

試みに、満足度の 299 名分のデータから 7次元を仮定した項目間のユークリッド距離を求め、これを非類似度として Kruskal の多次元尺度構成法を用いて分析した。stress (あてはまりの指標) は 3次元で 0.095 と大きく減少するが、複雑にならないよう、2次元空間上に布置した (stress:0.189)。加えて得られた布置を独立変数、各項目の平均を従属変数として重回帰分析を行った。結果を、Fig.7 に示す。中の矢印は重回帰分析の結果で、矢印に近いほど満足度が高いとみなすことができる。布置をみると、項目が円環上に布置され、満足度が必ずしも直線状に並ばず、判断にあたって多様な要因の影響を受けていることが示唆される。重回帰分析の結果をみても、満足度も1つの方向に向いているが、それ以外の要因も畳み込まれている可能性が示唆される。

#### 4. まとめ

これらの結果より以下のことが重要と考えられる。

- (1)行政サービスとしての劇場の存在が市民に伝わるよう事業展開や事業運営を工夫すること。
- (2)音楽，古典芸能分野の公演・講座を，ターゲットとなる客層を考慮しながら，バランスよく行うこと
- (3)生活満足度についてみると，利便性（買い物の便，交通の便），周辺環境（みどりの豊かさ，空気のきれいさ，周りの静けさ），施設（公園や図書館などの公共施設，グリーンホールなどの文化施設）はそれぞれ判断がまとまる傾向にあること。今後，周辺環境の改善や芸術文化面の事業の拡充が課題となることが示された。

文化施設の満足度は，環境影響評価のDose-ResponseのDoseが何なのか特定するのが難しい。今後，Doseにあたる事業報告（自主事業や貸館事業）との対応，他の都市の調査結果

と比較するなどして，その要因を確かめていく予定である。

#### 5. あとがき

本報告は2009年9月に，調布市生活文化スポーツ部文化振興課が実施したせんがわ劇場に関する市民意識調査の一部である。

本報告は，桐朋学園第2種研究研修による研究助成を受けた。

#### 文献

- 1) (財)地域創造，「地域の公立文化施設実態調査」報告書（平成19年度）”6-9(2008).
- 2) 地方自治法第244条
- 3) 調布市音楽・芝居小屋のあるまちづくり管理運営計画(2007).
- 4) 調布市市民意識調査報告書（平成19年度版(2009).
- 5) 難波ら，”音環境に関する調査票改訂版の提案-(社)日本音響学会・社会調査手法調査研究委員会報告-,”音響学会誌, 62, 4, 351-356(2006).

Table 1 生活環境の満足度の項目間の相関係数

	買い物	交通	みどり	空気	静けさ	公共施設	文化施設
買い物	1.000						
交通	<b>0.567</b>	1.000					
みどり	0.118	0.147	1.000				
空気	0.079	0.175	<b>0.776</b>	1.000			
静けさ	0.112	0.002	<b>0.553</b>	<b>0.643</b>	1.000		
公共施設	<b>0.248</b>	<b>0.219</b>	<b>0.439</b>	<b>0.365</b>	<b>0.343</b>	1.000	
文化施設	<b>0.318</b>	<b>0.298</b>	<b>0.260</b>	<b>0.229</b>	0.166	<b>0.656</b>	1.000

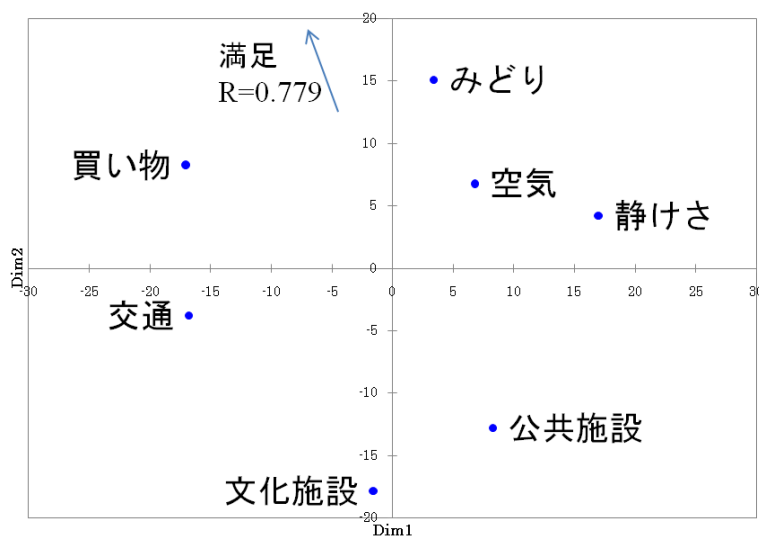


Fig.7 多次元尺度構成法・重回帰分析の結果（Rは重相関係数を示す）